

じゅず
数珠

世界のムスリムのくらしー日常の中の祈り

G0217

マレーシア・
ウズベキスタン



※色が違う場合があります



イスラームで使う数珠。神様をたたえる言葉を唱えた回数を数えるために使う。イスラームの神アッラーには99の別名があるとされ、玉の数は基本的には99個（大）だが、33個（小）のこともある。玉の数が決まっているので、指を折って回数を数えるよりも、お祈りに集中することができる。



寺村先生からのひとこと

解説で「玉の数は決まっている」と書きましたが、玉を束ねている箇所にも数個使われていたり、33個または11個ごとに形の違う玉が入っていたり、数珠によってもけっこう数が違ったりします。みなさんが手にされた数珠は、玉の数は何個だったのでしょうか？実際に数えてみて、国によって違うのか、同じ国でも数珠によって違うのか、比較してみたら面白いかも！？



信田先生からのひとこと

指で数えたりすると、忘れてしまうので、こうした道具が作られたらいいです。仏教でもキリスト教でも似たような数珠があるのですが、数珠というのは、本来、そういう役割があるのかもしれないですね。どうして33という数字が重要なのか、考えてみてください。礼拝の後に、99回、神を称える言葉を唱える。スプラーナッハー/Subhanallah(神聖な全能の神)という言葉が33回、アル=ハムドリッラー/Alhamdulillah(アラーの偉大さ)という言葉が33回、アッラーフアクバル/Allahu Akbar(全能のアラー)という言葉が33回